

スパコンによるロケット開発最前線！

◆スパコンってなに？

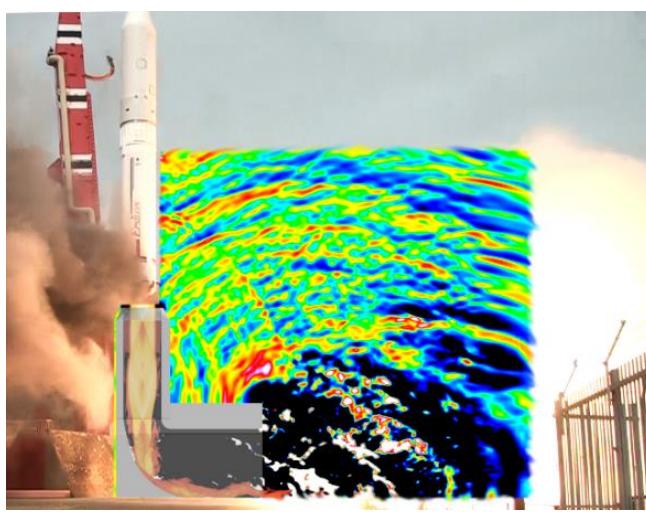
みなさんの中には家でパソコンを使って文章を書いたり、インターネットで調べ物をしている人も多いでしょう。スーパーコンピュータ（スパコン）もパソコンも同じコンピュータの仲間ですが、スパコンは学校の体育館ほどの建物に設置されるぐらい大きなコンピュータです。そして何よりもパソコンと比べると非常に計算が速いことが特徴です。例えば、パソコンでは7年もかかってしまうような計算を1日で終わらせることができます！また、パソコンの計算速度を人が歩く速さに例えると、スパコンの速さは宇宙に飛び立つロケットと同じくらいになります。スーパーコンピュータがどれだけ「スーパー」なのかおわかりいただけるでしょうか。



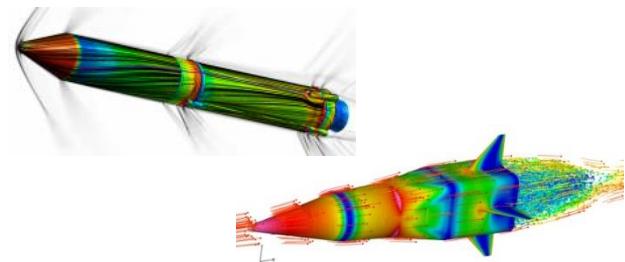
JAXAのスーパーコンピュータ(JSS2)

◆第三研究ユニットって？

研究開発部門 第三研究ユニット (JEDI) では、シミュレーション技術を使って新しいロケットや人工衛星などの宇宙機の研究と開発を行っています。例えば、ロケットが発生する大きな音やエンジン内の燃焼ガスの流れなどをコンピュータの中で再現する技術の研究・開発を行っています。この技術を使うと、再現結果を詳しく観察して未知の現象がわかったり、限界はあります。未来に起こる事を予測することができます。JEDIにはこの技術の専門家が集まっていて、スパコンを使って宇宙開発の新しい可能性に挑戦しています。



イプシロンロケット打上げ時の音のシミュレーション



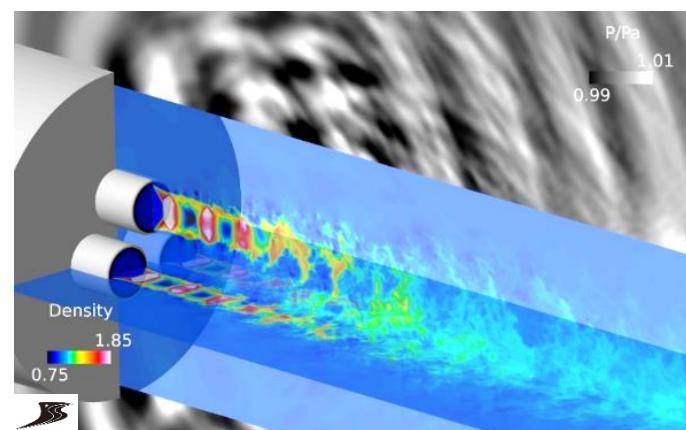
イプシロンロケット(上)と再使用観測ロケット(下)の飛行シミュレーション

◆ロケット打上げのすさまじい音から人工衛星を守る！

ロケットはエンジンからたくさんのジェットを吹き出しながら、“ゴー”というすさまじいばく音とともに大空へ高く上がっていきます。この“ゴー”というすさまじいばく音はどのぐらい大きいかというと、家庭の音楽コンポをなんと2500万個も並べたぐらい大きなエネルギーを持っています！離れて見ていると迫力がありカッコ良いですが、ロケットに乗っている人工衛星にとってはあまりにも音が大きすぎ、壊れてしまうほどの危険なばく音です。そのため、ロケットを開発する時はこの音がどれほど大きいのかということを予測したり、音を小さくする方法を考えることが大切です。

これまで、40年ほど前にNASAで作られた方法を使ってばく音の大きさを予測してきました。当時はロケットのばく音がどのように発生するのかということがよく分かっておらず、音の大きさを正確に予測することは難しいことでした。40年後の現在、私たちは最新のスパコンと高度な数値シミュレーションを使って、打ち上がるロケットからどのようにばく音が出てくるのか、その大きさはどのぐらいかという問題に挑戦しています。さらに、音を小さくする方法にも取り組んでいます。

これらの技術はH-IIBロケット・イプシロンロケットの打上げ施設の開発に使われています。現在はH3ロケットの開発にも使われ、人工衛星にやさしいロケットを目指しています。

クラスタジェットの流れと音のシミュレーション
(H3ロケット開発)

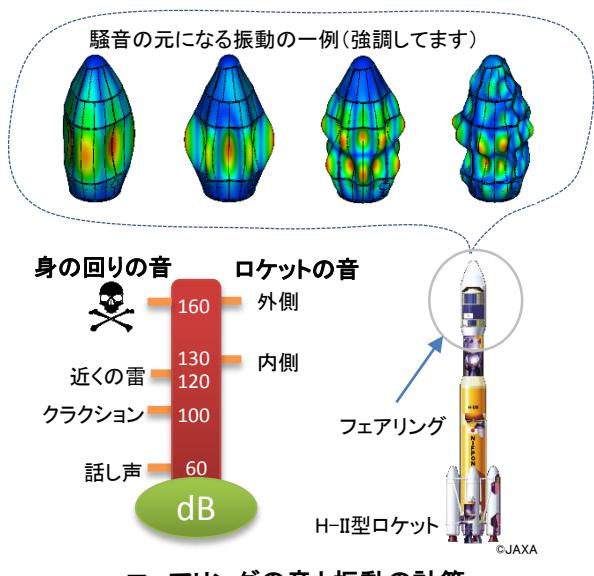


◆騒音を防ぐ軽くて強いフェアリングを作る

ロケットの先端部分をフェアリングと呼びます。フェアリングには、中に載せている人工衛星を外側の騒音から守るという重要な役割があります。

ロケットの外側の騒音は、時として160dB(デシベル)以上になりフェアリングを大きく振動させます。この振動が原因でロケットの内側では、近くで聞く雷よりも大きな音がしています。

JAXAでは、現在次の新しいロケットに向けて、軽くて強くて音が静かなフェアリングのコンピュータシミュレーションを行っています。静かなロケットがあれば、今よりももっと精密で高性能な人工衛星を打ち上げることが出来ます。



◆エンジン内で炎をうまく燃やせ！！ ～炎と音のふしぎな関係～

ロケットを打ち上げる時に、ノズルから吹き出る炎は、エンジンの中のたくさんの小さな炎(理科の実験で使うガスバーナと似ています)が集まってできています。

普通は安定して静かに燃えていますが、何かのきっかけで、エンジン内の炎がフラフラと揺れてしまうことがあります。そのまま静かな安定した燃え方に戻ることもありますが、炎がどんどん揺れていき、最後には炎が直接エンジン内の壁に触れて、金属の壁が溶けてしまうこともあります。こうなると最悪エンジンは爆発し、ロケットの打ち上げは失敗てしまいます。

どうしてこのようなことが起きるのでしょうか？炎が揺れながら燃えると大きな音が出ます。この音がエンジンの壁で反射し、条件がそろそろと大きく炎を揺らしてしまうようなのです。でも、はっきりとした理由を知っている人は世界中でまだ誰もいません。JAXAのスーパコンはとても速くたくさんの計算をすることができる所以、炎の燃え方や音が発生する様子を計算して調べることができます。

ロケットのエンジンを作る前にコンピュータを使って、エンジンの中の炎全てがどう燃えるかを知ることができます。その後のテストや改良をする時間や費用を大幅に減らすことができるはずです。この様になることをわたしたちは目標にしています。



◆関係者から一言

ユニット長の嶋です。スーパコンは10年で1000倍のペースで速くなり、それを用いて物理現象を忠実に再現する数値シミュレーションも急速に発達しています。飛行機や自動車、さまざまな電気製品や携帯など、今や「ものづくり」には、この技術が設計や開発に欠かすことのできない道具となっています。信頼性が大切で保守的にながちな宇宙開発では、その導入が遅っていましたが今やっと活用の時代に入っています。世界トップクラスのスーパコンと研究者集団の知恵を駆使することで日本の宇宙開発をさらに信頼されるものに変えていく仕事をしています。

◆もっと詳しく知りたい人のために

<http://stage.tksc.jaxa.jp/jedi/>